

議会報告会報告書(記録)

開催日時	平成26年10月28日(火) 午後7時00分～午後8時40分				
開催場所	原田地域生涯学習センター				
参加人数	31人				
出席議員	3班	竹嶋 善彦	内藤 澄夫	山崎 恒男	中上 禮一
		大石 勇	窪野 愛子	松本 均	山本 裕三
	(質疑・意見)		(回 答)		
基本認識	今回の内容は国でも大きく取り上げている事柄であり議会報告会で国の方針を説明することはどうかと思う。具体的な対策なども市ではできないのではないかと？		国も人口減少に関して確かに大きく動いている。少子高齢化が進んでいる地域の小学校では、前回の議会報告会でも取り上げた水道問題や病院関連など、これまでの計画を見直し人口減少社会を見据えて計画を作り直していかなければならない。福祉、教育など全てが関連していく。今後は自治基本条例に基づき地域で考えて行く必要もある。その為に今回の内容は取り上げるべきという事で取り上げた。		
超高齢社会	父親も要介護3で神子の園に入っているが、現状要介護1～5、国は1と2を無くそうとしている。掛川で要介護2と3だと、どの程度金額がかかるか。ちなみに自分の父親は要介護2で月11万程度支払っている。		資料にあるのは、施設入所が要介護3では276,619円(ユニット型)。在宅であれば要支援2で限度額は104,000円。要介護3では267,500円。知り合いのある女性は特別養護老人ホームで月8～10万円、ある男性は治療も込みで18万円ということである。月26万～30万円かかる。		
	以前区長をしていた方が北病院にいらしている。要介護5であるので35万8,500円が国から出ている。自分でも20万円払っているので計55万円かかる。しかしその方の奥さんが毎日おむつ替えなど身の回りのことをやって20万円で収まっている。それをやらなければ30万円。サービス料にかかることを知るべき。		9割は国、県、市負担で、1割が自己負担。タオル、食事は別にかかる。サービス料に20万円かかった方もいる。北病院は医療にもお金がかかる。		
	介護度が上がれば過度な支援をし、本人は何もできなくなることもある。助け過ぎ、行き過ぎた介護をやめ、介護度を下げたら評価できるようなことができないだろうか。ほのぼのデイサービスは介護度を下げて喜ばれている。		助け過ぎはリハビリの効果がなくなる。歩ける人に歩行器を与えるなどの行き過ぎた介護については新聞等でも取り上げられている。議員としても感じることもある。		
	掛川市には各施設がどれだけあるか。		資料を基に各施設の説明を行う。		
	北病院の値段を教えてください。		特別養護老人ホームに比べれば治療を行う北病院は高い。しかしながら、今資料がなく細かい話は分からない。 (参考)北病院:要介護3 343,574円(保険分)		
	特別養護老人ホームで入所の価格を抑える為に、そして施設の負担を抑える為にも1人部屋ではなく多床室(4人部屋)を増やしていくべきではないか。議会活動の中で1人部屋を多床室に変えることを考えて欲しい。		10年前は1人部屋を増やすよう要望があった。最近は多床室のニーズもある。施設側、ユーザーには様々なニーズがある。		
	今後のまちづくり協議会で「婚活部」を作ったかどうか。		地域でやっていく必要はある。		
少子化	社協でも婚活をしているのでより活用したほうが良いのではないかと。もっと宣伝してほしい。婚活は大変。		(特に回答なし)		

	(質疑・意見)	(回 答)
その他 人口減少 社会に関 する質疑・ 意見	内陸フロンティア、新東名を活用し開拓するチャンスである。大企業を呼ぶこともできるのではないか。市もその気になって動いて欲しい。	掛川市は企業誘致をしてきた。交通条件も恵まれている。工業出荷額も1兆2,000億円、県6位であるが、最近の企業は合理化で人を雇わない。今後皆様の意見を聞かせてほしい。地元でも議員を通じたり、直接でもよいので提案をしていただきたい。雇用をつくり東京から人を呼べばいい。魅力あるまちづくりが必要。皆様と考えていきたい。 内陸フロンティアに関して、上西郷地域の産業集積地域、寺島農地整備推進地域、倉真第2パーキングエリア整備推進地域、新エコポリス第3地区、南部大坂・土方地区産業集積地域、命を守る希望の森地域を県の肝いりで行っている。
その他 質疑・ 意見	中東遠総合医療センターの外来待ち時間が長い。どうなっているか。	救急で医者が抜けてしまう場合がある。そのような場合は看護師が説明をしなければならない。全てが2時間以内で終わるようにしなければならない。

議会報告会報告書(記録)

開催日時	平成26年10月29日(水) 午後7時00分～午後8時40分				
開催場所	大東支所3階市民交流センター				
参加人数	95人				
出席議員	1班	高木 敏男	堀内 武治	鈴木 久男	鷲山 喜久
		山本 行男	雪山 敏行	二村 禮一	大場 雄三
	(質疑・意見)		(回 答)		
基本認識	東京一極集中の反面、人口減少社会は全国的な問題。ここに住みたくなる特色ある施策の展開を。		貴重な意見として参考にさせて頂く。		
	男性と比べ女性の転出が多い要因は。		都市で学んだ学生の就職先、働く場が少ないことも要因の一つと考えられる。		
超高齢社会	マクロ的には国県で。地方では地域ニーズに合った制度を確立し、元気な高齢者に頑張ってもらえることを、考えるべきでないか。		協働のまちづくりで地域ニーズを把握すべき。		
少子化	人口増対策として、結婚・妊娠・出産はこれからの重要テーマ。待ったなしで直ちに対応すべきと思う。(答弁はいらぬがしっかり対応して次の機会に報告願いたい)		(特に回答なし)		
	子どもの学費は無料化すべき。今やらなくては、益々手遅れに廻ると思う。		貴重な意見として参考にさせて頂く。		
	資料24頁(今後考えられる制度の例)にあるような財政支援制度だけでは失敗すると思う。		一例として、「三世同居応援事業(住宅新築、改修等助成制度)」は人気があるようである。		
	育休後に復帰した場合、職場の雰囲気の問題はないか。		違和感があるとすれば、雇用の促進と女性の地位向上の為に、行政が民間企業に対し指導することが必要と思う。		
その他人口減少社会に関する質疑・意見	住民税、固定資産税、国保税など、他市に比べ高く住みよい街とは言えない。		(特に回答なし)		
	農業を産業として位置づけ、新規若者の参入を施策として進めている市もある。荒廃農地防止策と人口増対策として取り組んだらどうか。		エコファーマーとしてイチゴ農家では受け入れをしている。野菜づくり等に拡大していけば農地の保全にも寄与すると思う。		
	デメリットばかりではない。東海道ど真ん中。新幹線駅と在来線駅が一体的。駅と東名ICが近い。緑が豊富等々。地方創生の時代に、このメリットを活かした施策を考えてほしい。		(特に回答なし)		
その他質疑・意見	2回目の報告会であるが、昨年保留して持ち帰った意見、提言はどのように処理されたのか。		議会として「提言書」としてまとめ、市長、病院企業団企業長に対し提言した。また、保留して持ち帰った意見については貴重な提言として扱っている。		
	保育園ニーズは高く、幼稚園は定員割れ。小学校も空き教室が多い。まだまだ行革が必要と思う。これら問題に議会はどう対処しているのか。		一般質問や委員会で討議しているが、難しい状態で方向づけが出せない状況にある。		
	今回のテーマはマスコミを通じ今日的課題として判っている。今後の施策をどのように展開するのが大事なので、そこを聞きたい。		皆さんの意見を大事にしながら、対応しなくてはならないと思っている。		
	議会報告会で何故このようなテーマを扱ったのか。		人口問題は市政の最重要課題として捉えている。		

議会報告会報告書(記録)

開催日時	平成26年10月29日(水) 午後7時00分～午後9時00分				
開催場所	大東北公民館				
参加人数	43人				
出席議員	2班	栗原 通泰	大石 與志登	鈴木 正治	草賀 章吉
		榛葉 正樹	渡邊 久次	野口 安男	小沼 秀朗
	(質疑・意見)		(回 答)		
基本認識	(特になし)				
超高齢社会	(特になし)				
少子化	(特になし)				
その他 人口減少 社会に関 する質疑・ 意見	今回のテーマで議会として何を実行されたのか？		この問題が議員の中で関心が高かったということで、議論をしていくのはこれから。今後の掛川市の重要課題ととらえ、10年後20年後の方向付けをしていきたい。皆様からのご意見も拝聴し新総合計画にも反映させたいと考える。		
	転出人口が県内ワースト2位とのことだが市は転出理由がみえているのか？調査しているのか？仕事が理由か？住みにくいのか？女性は出産、育児、教育、医療で悩んでいると思う。来年4月をどう迎えるか困っている。我々の地域の園にも地区外から7、8名がみえている。お金がかかるといふことで、ひだまりか佐束しか無いと言われこちらに来ている。数字上の待機児童ではなく本当の待機児童対策を望む。		三世帯同居応援補助成などを実施している。じいじばあばに子育ての協力を得て、働ける環境が大切。なぜ若い女性が減るのかについては市民意識調査があり、掛川の中心市街地は魅力的な住みやすい場所かどうかに関して8割が否定的で、買い物しにくいなどの回答。歴史、文化に満足している回答は5割を下回った。一番大きいのは職業で、働く場所が見つからない、の回答が多い。		
その他 質疑・ 意見	浜岡原発をどう思うか？ 住民投票の実施例として何があるか？		浜岡原発の再稼働に関しては市議会として6項目の意見書を衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣をはじめ各大臣へ提出したので、その判断によって再稼働のこれからがどうなっていくのかが掛かっている。事故の原因が確認されず、6項目の条件が満たされない限り再稼働は認めない。 市長の思いにも、市民の意見を尊重するとあり、つまり市長が出す住民投票にするのか、市民からとするのか。平成26年10月1日からスタートし、いかに活用するかが今後求められる。		
	協働のまちづくりのモデル地区である西山口地区は2,700世帯あり自治会も7、8区ある。佐束地区は4区で700世帯しかない。規模に大きなズレがあるがいかがか？		協働のまちづくりは基本的には小学校区単位での区画となっている為、地域差は生じる。		
	佐束区は財産区がある。原野管理委員がその下にある。岩滑区は原野管理委員に入っていない。高瀬区は約250世帯ある。旧高瀬は保守的でよそ者は相手にしない。財産区を協働のまちづくりに入れるか入れないかが検討課題。財産区はお金の問題があり、お金というものはあっても無くてももめる。地域住民と鈴木(久男)議員とよく話し合いを今後させて下さい。		(特に回答なし)		

	(質疑・意見)	(回 答)
その他 質疑・ 意見	うちは小さな地区でお店も無い。買い物、病院にも行けない。百円バスも通っていない。独り暮らしも多い。南部の交通網をどう考えているか？	正直なところ、そこまで具体的に考えていないのが実状。第三セクター方式で掛川の街中をバス会社に運行を頼んでいる。大東、大須賀をいかに充実させるかが課題でデマンドバスを考えている。現在市内では領家、和田岡、大須賀にあり、好評な部分と不評な部分がある。
	いつも温泉のバスが空席で回っている。それを利用して他のバスに乗り継ぎなどできると良い。もったいない。	制度的に出来ないこともない。原泉は西郷の滝之谷から手を挙げたらどこでも乗れて、どこでも降りられる。可能性はある。お答えは出来ないが議会からも提案したい。
	知人が中東遠総合医療センターに4日前紹介状を持って行った。市長は紹介状があればすぐ診てくれると言うが2時間待っても呼ばれない。あと7番目だと言われたがそれは最後だった。ラストです、と最初から言って欲しい。火曜日と水曜日しか来ない外科の先生だからすごく混む。その知人はご飯を食べずに15時までかかった。一方で、ハチに刺されたらすぐ診てくれた。救急の方がいい。もう少し何とかならないか？愚痴と思って聞いて欲しい。	ご迷惑をおかけしお詫び申し上げます。中東遠総合医療センター支援特別委員会でも運営について指摘している。病院は掛川市・袋井市病院企業団が運営している。原則的には両市長とも口を出せない。この為、企業団運営会議を設け、市長、議員、医師会も参加し、口を出せる場を設けた。紹介状を持って行ってもそれだけではだめで、予約の順番があることをご了承願いたい。待ち時間も以前より改善されているのでご理解いただきたい。
	区から津波、防災対策寄附金が回覧されている。西は大きな企業寄附があったが掛川は浄財でやるようだ。掛川市の他の事業を先送りし、優先順位を変えて、市の予算で防災をやるべきで、何でも寄附に頼るのは良くない。どういったコンセプトか教えて欲しい。	有志、法人から、5年で3億円の基金を設け地震対策に備えようとしている。今はまだ9,000万円。寄附はあくまで個々であり、地域の意思にお任せしたい。
	①高齢者の年齢を区別していて市の老人会助成は60歳以上のはず。国と県は65歳以上だがそのギャップに矛盾はないか？ ②シートピアの温泉バスを廃止にせよと言っている。市民から見ても無駄である。早急な対策を。 ③地区集会の来賓として議員が来るが、地域の問題を地域住民と共に解決しているのか？ 以上回答は不要。	(特に回答なし)

議会報告会報告書(記録)

開催日時	平成26年10月31日(金) 午後7時00分～午後9時00分				
開催場所	初馬会館				
参加人数	85人				
出席議員	3班	竹嶋 善彦	内藤 澄夫	山崎 恒男	中上 禮一
		大石 勇	窪野 愛子	松本 均	山本 裕三
	(質疑・意見)		(回 答)		
基本認識	静岡は全国から見ても住みやすい。お茶やレタスの特区を作ったらどうか。人口問題も関係するのではないか。		貴重なご意見ありがたい。レタスは長野県が有名である。葛ヶ丘も人口偏重地区である。またお知恵を貸していただきたい。		
	掛川市は60歳くらいの方の転入が多いと聞いたことがあるがどうか。		特に聞いたことはないが、お城があり、市民活動が盛んでいい街であると、県外から葛ヶ丘に引っ越してきた方と話したことがある。内閣府の調査によれば都市部の60%が地方に住みたいという調査結果がある。		
	例えば青森市はコンパクトシティを目指している(うまくいっていないが)。菊川市には若い人が、特にママが集まっている。高齢者などお金を持った方々を掛川に集めれば人口減少など解決していくのではないか？		働く場所、経済が成り立つことが一番である。掛川市は工業団地に企業誘致をし、健康医療、環境、ごみ減量日本一などを頑張っている。より勉強していきたい。		
	若い時、40歳代前から年に1回健康診断を確実に実施する、実施できる体制とすべきでは。		(特に回答なし)		
超高齢社会	65歳は高齢者ではなく労働者として位置付けて欲しい。75歳以上を高齢者として位置付けるべきである。		貴重なご意見である。介護保険も65歳以上で第1号被保険者となるが、利用しなくてもいいように運動や栄養に気を付けていかなければならない。		
	健康寿命を延ばすには個人の意識を高めていかなければいけない。個人の意識を高め、広めるようにする為の方法は何か。		例えば川根本町は高齢者の社会参加を増やしている。掛川市も区を回り、しゃっきり度チェックをしている。これからもみなさんと一緒になって考えていきたい。		
	農作業は健康に良い。光陽の里や水垂で家庭菜園や農業をしている方たちは多い。しかしそこにトイレがない。対応や、活動が広がるように調査、政策を考えて欲しい。		そのようなことは、これまで気が付かなかった。これからそのような面も配慮していきたい。		
	認知症は施設に入所しなければ大変。今後は自分の事を自分でできる人を増やしていかなければならない。		(特に回答なし)		
少子化	三世代同居応援補助金の説明が欲しい。		三世代同居応援補助金の説明を行う。		
	新聞に載っていた三笠運輸のことをもっと伝えてほしい。		三笠運輸の件は言い忘れてしまった。承知している。三笠運輸は女性も働きやすいが男性の子育て参加もしやすくしている。		
	学童に対して、人材や施設面での支援をお願いしたい。		学童保育の待機児童がいる。掛川市も20人くらいが待機状態である。来年の4月からは6年生まで対象になる。掛二小、中央小は人数が多い。今後も考えていかなければいけない。		
	くらみ子育て支援事業所「パンダ広場」の駐車場が狭い。		パンダ広場には行ったことがある。市のこども希望部の担当とお母さんと直接話をした。パンダ広場は良い施設である。様々な施設が隣接しているので駐車場も狭い事は感じている。		

	(質疑・意見)	(回 答)
その他 人口減少 社会に関 する質疑・ 意見	今後、小学校の統合などもある。今後の施設はその後に他の用途に活用できるように作っていく必要があるのではないかと。75歳以上まで働く等もっと考えて欲しい。	(特に回答なし)
	人口減少社会の対策の為にスマートICを作ったらどうか。	内陸フロンティア構想に倉真第2パーキングエリア地区整備推進地域がある。利活用は道路整備を含め考えなければならない。しかしながら、ネクスコが顧客予想に関して厳しい状態にある。
その他 質疑・ 意見	協働のまちづくりに関して議会の考えを伺いたい。	協働のまちづくりに関しては、平成24年度に自治基本条例検討特別委員会でも議論をし、平成25年度から自治基本条例が施行され、それに基づき平成26年10月には住民投票条例も施行された。各地域に議員がいるのでそこに入って参画している。地域が頑張らなければならない時代になってきたと考えている。
	市議会のチェック機能に関して。行政側は一、二年で担当が変わってしまう。議員は4年の任期があるのだから環境に関わる農業等、専門性を高め行政のチェック機能になる事を期待する。	チェック機能に関しては日々勉強している。他市の優れたところを研修会や視察についてチェックしている。行政担当がすぐ変わってしまう点だが、最近は新しい課を設置したりもしている。最低3年はいると思うが、昔、議員は地域の代表であったが、今の議員は掛川市全体の専門性をもっている。農業関連、女性など専門の議員もいる。農業問題に関しては会場の内藤議員がずっと行っている。これからも専門性を活かして行っていく。
	西郷は背後に山があるので市内のどの地区より猪がよく出る。処分する場所、埋める場所がない。静岡県の関わり合いが弱い。	猪に関しては日本全体の問題である。狩猟免許者のみに負担がかかるようではいけない。猪1頭で17,000円、猪の子供は11,000円。うまく分けられないので、地域でお金を出している。市の土地に埋めればという話もあるが廃棄物の関連で難しい、火葬場も犬猫だけである。最終処分場をつくるべきだと思う。今後行政と研鑽していきたい。農業に関してもそれ以外でも後継者がいない。お茶に関してもそう。平成3、4年に比べると価格は半分。お米も安い、安い所で60キロ8,500円、7,000円の所もある。考えていかなければならない。
今回の会場で配られるお茶は掛川茶ではない。市長が掛川市のNO.1はお茶、ONLY.1は報徳と言っていた。掛川市のお茶を盛り上げる気運があるのならしっかり掛川茶を出してほしい。	もっともである。世界農業遺産、お茶広め隊、掛川スタディを活かしていきたい。	

議会報告会報告書(記録)

開催日時	平成26年11月4日(火) 午後7時00分～午後9時00分				
開催場所	栄川中学校多目的ホール				
参加人数	74人				
出席議員	2班	栗原 通泰	大石 與志登	鈴木 正治	草賀 章吉
		榛葉 正樹	渡邊 久次	野口 安男	小沼 秀朗
	(質疑・意見)		(回 答)		
基本認識	<p>乱暴な表現になるが、今後の日本で子供は今までより生まれにくい。 歴史的に振り返ると経済の仕組みを日本が1980年1990年代で変えた。年金制度を変え国保の負担を変えた。医療の国負担は大幅に変えただけでなく国はペナルティを沢山つけた。今は年収が200万円以下の者が1,100万人を越えている。大学出ても正社員にもなれない。なったとしてもブラック企業だったりする。若者は働く場所が無い。食べていくのに精一杯。これでは結婚できるわけがない。私達の地域は、親と同居してなんとか暮らし、家業の農業を兄弟の誰かが手伝ったりして食べているが、これらを作り出したのは政治だと思う。今になって少子化対策と言っても今回の議題のテーマにすること自体おこがましい。</p>		<p>説はごもつとも。こうなった現在、行政はどのように対処せねばならないかが課題。国のみならず掛川市としてもどうしていくのか、どの方向性が良いのか議会としてもまとめていきたい。</p>		
	<p>地方自治法の1条と2条に国と地方が行うことがはっきり明記されている。地方は福祉の増進この一点につける。暮らしやすい安心して生きていける社会を。そうしたら結婚できる。人口問題を数字で述べるが戦前は人口7,000万人、朝鮮に2,000万人、台湾に1,000万人、これら足して1億人になったようなもの。今のように急に減るのも問題だが過去を振り返れば急に増えた歴史もある。それほど問題ではない。</p>		(特に回答なし)		
超高齢社会	掛川市の介護保険料が県内で2番目に高い要因は？		介護保険料が高いということは、一方ではマイナスだが、一方でプラスの内容である。掛川市は他市より介護施設等が充実しているともいえる。		
	それは良い事だが健康寿命との関係はいかがか？		前期高齢者の方々がもっと社会貢献や農作業などに力を入れて栄養、運動、社会貢献の3つのことをやって頂くことで施設に入らないように健康寿命を延ばしましょうというお話をさせて頂いた。		
	健康寿命について、30年程前に国保加入者は医者にかかる人が少ないとのことで、お茶の水女子大の先生を呼んで掛川市の調査を行った。ゲートボールが良いなど過去の良かったことも現場できちんと総括して生かすように。		確かにそのこともある。何といたっても健康で長生きする。スポーツなど各々です、地区です、今の内容については考えてみたい。		
	保険料が高い。イコール市の負担が少ない。言い換えたら、ゴミの袋の値を上げるのと同じように市民に肩代わりさせていることではないか？サービスを向上するという意味で財政からも考えてほしい。		(特に回答なし)		

	(質疑・意見)	(回 答)
	結婚しても子が授からない現代の問題に低体温や体の問題がある。男女間の出会いや社内恋愛など、異性を求める環境の改善も研究してあげたらどうか？	市の補助事業で不妊治療など治療費補助もしている。成果も上がっている。出会いの場、地域の祭りなど、若者が進んで参加してくれることへの取組も必要と考える。
少子化	榛村純一さんの知人で龍山村の青山さんという方が林業で娘しかいない村に都市部から人を呼ぶ事業を1960年代にやった。今の時代でも農協などとタイアップして定住人口増加に工夫すべし。そういった市外から子育ての為に引越してくる人には、預けるところの問題、預ける時間の問題があり、掛川では子育てしやすい環境作りが必要。居を構えてくれたら住民税も入る。納税してくれる人を増やそう。意見です。	(特に回答なし)
	人口減少問題より結婚の相手がいないのが現実。一旦仕事を辞めると正社員になれない。収入も少ない。働く場を市で見つけ積極的にPRすべき。このままでは結婚するのは不可能です。私達の地区は農家のみで茶農家でさえ生活がギリギリ。農業から離れてしまうのが現状。市で農業をどうにかして欲しい。一俵8,000円では採算取れない。	雇用の関係は全くそのとおり。結婚難に結びついている。行政もわかっているがどこまで入るかが問題。市長も各企業を回っているが、企業の考えがそこまでいっていない。農業としては効率よく作業できるよう農地問題に取り組んでいる。後継者が出来るかが問題だが精一杯議会としてもやりたい。今後も指導をいただきたい。
	地方消滅の本によれば800の自治体が消える。1と3のテーマに関する若年女性層を維持するモデルとして、もう少し掛川に住みたい魅力を出すべき。どの市も同じことをやっている。もっと独自性を。	若い女性が掛川から出てしまう意識調査がある。3点問題があり、中心市街地での買い物、商業として魅力がない。郷土、歴史に誇りや愛着がない。市内事業所として女性に理想的な所があまりない。
その他 人口減少 社会に関 する質疑・ 意見	この会場でも65歳以上の方が多。若い人は仕事持っていて中々うまくいかない。今後はポイント制度にしたらどうか？例えば介護のお手伝い1時間1ポイントなど。65歳から74歳くらいまで働き、ポイントが貯まったらポイントで支払いができるなどはどうか？ただで働くのも良いがポイント制の魅力があると働く気も起こる。お金だけで介護保険料を払うのではなく、協働の中で払うのも良い。我々より若い人にも今後それで支えてもらう。	良いアイデアだと考えられる。地域通貨のように限定して使用ができる。検討するに値する。持ち帰らせていただく。

	(質疑・意見)	(回 答)
その他 質疑・ 意見	肺炎球菌ワクチンの補助を受けたが県内で一番低かった。住みやすい郷土といえるのか？介護保険料も県下で2番目に高い。もっと明るい結果はないのか？ふるさと納税などで増収の策はないのか？	肺炎球菌ワクチンの補助制度が掛川市で始まったのが昨年で、確かに県内ワースト2位くらいかもしれないが始まっただけでも進歩している。 5歳刻みの定期予防接種となった。国が国民に接種を推奨するワクチンとなった。補助率が一番低いのはそのとおりのようであるので研究すべき内容なので持ち帰る。 ふるさと納税については9月議会で充実に向けた一般質問がなされ、検討するとの回答もいただいている。但しお礼がメインでなく本来の意味を持つ制度としたい。
	昨年の議会報告会で水道の話があった。危機感があり、市長に提言した後の結果を聞きたい。今回はオールジャパンな問題だが身近な市政の問題にして欲しい。	水道の提言は、人口減少社会の中で水道ビジョンを示すよう、大井川右岸で広域連携を早期に作るよう、大井川用水企業団に二部料金制を見直すようなどです。これらの回答には時間をいただきたい。当局から回答が示されればこうした報告会の中で報告する。
	会社をやっておりパートと臨時社員を雇っている。最近では時間限定の生産商品が多い。午前中での出勤を希望する人は多いが、お客は夜中でも持って来いの声が多い。納入時間を変えて雇用しやすい時間帯の工夫ができないか？	生産現場の生の声を聴かせて頂きありがたい。各々の企業が抱えている問題がある。どちらかという中・大企業に目がいきがち。今の現場の声に応えるべく進めたい。回答にならないが、お知恵を貸して欲しい。
	掛川には5年前オンブズマンが入り今年判決になりいくらか政務調査費を返金したようだが議会からコメントがない。現職で議員をやっている者もいる。議会の態度をはっきりすべきではないか？	(特に回答なし)
	リニアによる生活用水問題も大切。建設許可が出て年明けから進むのではないか？JR予測の毎秒2tは大井川広域企業団が出水している量とイコールで大問題である。	おっしゃるとおりの数値である。市、議会、一体となり水量を確保する方策を国へ訴えている。市も県知事への陳情、要望をしている。議会としても7市合同で要望している。地下水が減らないようにJR東海へも訴えているが、なしのつづて状態である。
	地元で第二東名工事の際、阿波々の水が枯渇した。対処しても一切効かないのが現実。水が出なくなったら復活は不可能。	今のお話も十分承知している。それも踏まえて要望していく。

議会報告会報告書(記録)

開催日時	平成26年11月6日(木) 午後7時00分～午後9時00分				
開催場所	南郷地域生涯学習センター				
参加人数	75人				
出席議員	3班	竹嶋 善彦	内藤 澄夫	山崎 恒男	中上 禮一
		大石 勇	窪野 愛子	松本 均	山本 裕三
	(質疑・意見)		(回 答)		
基本認識	増田寛也氏の本によると、将来推計人口について、掛川市に比べて袋井市の人口減少数が少ない。市議会としてはその辺を調査研究すべきでは。		例えば長泉町は出生率が高い。それは、働くところ、子育て環境がよいということがある。女性が県外に出て行っている。いろいろな課題がある。今後研究していく。袋井市は愛野のような若者に人気の街が出来た。出生率は県で3位である。そのようなことが推計に表れていると考えられる。		
超高齢社会	掛川市の介護保険料は県内でトップに近いがなぜか。希望の丘ができたらどうなるか。		掛川市は月5,050円、島田は4,000円、磐田は4,200円、掛川市とは1,000円違う。11段階で一番払っている人が月10,100円で一番少ない人が2,550円である。介護施設数が多いことが要因である。希望の丘が完成すれば上がることも推測される。3年刻みで月500円程度上がっていく。若い世代に負担をかけないようにいきたい。健康寿命を延ばすように予防事業にも力を入れる必要がある。		
	福祉施設の待機者が増えている。施設が足りない。介護保険もしっかりと見返りがあれば上がっていても払っていく。		特別養護老人ホームが足りていない、現在他の施設に入っていて入所を待っている人が多い。現在掛川市では45名が一番緊急度が高い分類に入る。希望の丘にできる施設でこの緊急度の高い方々は何とかなるがそれでも施設は足りない、施設を充実させれば負担は上がる。40歳～65歳未満つまり第2号被保険者の負担も増える。		
	国は女性の社会進出を推進している。その反面、施設介護から在宅介護にシフトしていて矛盾している。議会として国に矛盾がない様に働きかけてほしい。		在宅介護推進と外で働けという事は矛盾している。扶養控除の件も矛盾している。医療・介護保険も含めて前向きに考えて行かなければならない。		
	介護保険制度の詳細は広報に載っているのか。収支報告を見れるのか、それを見なければ納得できないのでは。		介護保険は特別会計である。決算の収支は広報に載っている。		
少子化	母子家庭のうち年収300万円未満が8割くらい。非正規社員が多い。子育てできるような環境にない。		長泉町ですら子育てに関して町民は不満を持っている場合もある。		
	少子化の要因として労働者派遣法の原因がある。非正規社員が増え、不安定、低賃金ゆえに、結婚も子づくりも出来ない方が増えている。		9月定例会で労働者派遣法に関し、議会として意見書を提出した。		

	(質疑・意見)	(回 答)
少子化	説明の中であった今後考えられる制度に関して掛川市はどの程度やる気と意思があるか。	働くところがあるということが基本。掛川市は企業誘致に力を入れている。 考えられる4点の制度も検討していきたい。子育て環境の整備も掛川市は力を入れてきた。今回の件を参考にして提言まで持っていけたらと思う。 参考までに、伊豆市の定住促進助成金は土地と家を買う場合は100万円。家のみの場合50万円である。応募が多くて困っているとのこと。坂出市は3年間限定で月1万円支給している。
	子育て支援の事を考えてくれることは嬉しいが、お金の事ばかりではなくて女性にとって一番つらいのは時間がない事である。30代子育て世代の女性のM次曲線等を調べてほしい。一日5時間しか寝れない。男性にもその苦労を味わってほしい。是非たくさん声を活かしてほしい。	30代の子育ては大変である。掛川市でも事例として三笠運輸は厚生労働大臣賞をとって女性が働きやすいように男性も応援している。女性だけではなく男性も関わっていけるように変えていきたい。子育てに関してはお金の事になってしまいがちだが、子育てコンシェルジュも掛川にはある。
	子育て女性の声をもっと聴いてソフト事業の面でも子育て支援していくべきではないか。それと今回のテーマである「人口減少」に関して議会と市の当局で受け止め方の温度差があるのではないか。	市当局も市長部局にこども希望部を組織し、働きながら子育てができるよう対応をしている。温度差に関しては、議会、行政、市民が一体にならないといけない。 長泉町の件も含め研究していく。
その他 人口減少 社会に関する 質疑・ 意見	このことはやっていく、他の予算を削ってでもやっていくという事があれば教えて欲しい。その話を聞ければ来てよかったと私たちは思える。	今回はどこまで詰められるかが課題だった。そこまでの結論は出せない。少子化に対しての課題はいろんな角度から見なければならぬ。課題として勉強していく。
	大きなテーマで市民一人一人も考えていかなければならない。様々な要因が複雑に絡んでいるため、今回のテーマはきっちりとした要因分析を行い、順番を間違えないように取り組んでほしい。 議員は歴史から学び、男女の変化などを考慮して要因分析を行い取り組んでほしい。	様々な課題に関し、議会としてどこにポイントをおくか考え取り組んでいく。
その他 質疑・ 意見	石川県羽咋(はくい)市には「スーパー職員」がいるとテレビで見た。前例のないことはなかなか話が通らない。市のスーパー職員を育成していく必要があるのでは。	全国で話題になる施策も稀に出てくる。行政は前例がないことはやりづらいが、これからの職員や議員は前例のない施策を考えなければならない。 ふくしあに関しては富士宮市の先進事例を参考にして行った。視察に行った際に福祉に精通している専門家を外部から連れてきていた。人材確保も必要である。 岩手県滝沢市(旧滝沢村)でも同じような事例がある。研究していく。
	これから「希望の丘」ができ、紅葉台にも200世帯の住宅地が新しくできる。トータルで車1,500台がオーバブリッジからこのあたりに降りてくる。交通渋滞に関して頭に入れてほしい。	東環状線、都市計画道路の話が進んでいない。240億円かかるので市としては難しく県にお願いしていると市長が言っていた。長期交通計画に東環状線は入っているが、改めて議会としても考えていく。

議会報告会報告書(記録)

開催日時	平成26年11月6日(木) 午後7時00分～午後8時35分				
開催場所	掛川市役所4階会議室				
参加人数	71人				
出席議員	1班	高木 敏男	堀内 武治	鈴木 久男	鷺山 喜久
		山本 行男	雪山 敏行	二村 禮一	大場 雄三
	(質疑・意見)		(回 答)		
基本認識	資料7頁の出生と人口移動等について、更に内容考察して原因を分析願いたい。		合計特殊出生率1.63は少ない。2以上が望ましい。若い女性の転出超過が課題。三世帯同居率が高いことは子育て支援になっている。		
超高齢社会	高齢者問題を考えると先行き暗くなるが良い施策は。		健康第一の生きがい対策を支援したい。		
少子化	女性が働きやすい環境づくりは。		保育所の充実等、子育て支援策を充実すべきと考える。更に高等教育を受けた女性がUターンしても働く場が少ない課題を克服したい。		
	生真面目な人が縁遠い傾向のようだ。結婚支援の対策が必要でないか。		(特に回答なし)		
	掛川は比較的施設も整っていると思う。幸せ感を持ってくれる女性を増やすべきでは。幸せ感が持てれば結婚・出産に繋がると思う。二人目は自宅出産をしたが、とても幸せな経験であった。一人目の出産の時は夫が1カ月くらい休暇を取ってくれ本当にありがたかった。		(特に回答なし)		
	学童保育を6年生迄延長願いたい。		市はその方向で検討している。		
	夫が早く帰宅し育児支援ができるシステムがあれば良いと主婦は望んでいると思う。		職場の理解も必要。子育てにはお金もかかる。理想は世帯で年収500万円位がほしい。所得補償も課題。		
その他人口減少社会に関する質疑・意見	未来が展望できない。国策としてやってほしい。生産年齢人口が減少している。市として何ができるか。		総合計画を策定中なので、人口問題はその中で施策として打ち出せると思う。		
	企業誘致は、ものづくり企業だけで良いのか。文化的な魅力ある企業も考えられると思う。		(特に回答なし)		
	数字が多く難しい資料。若い女性が多く転入している清水町の魅力は何か。		子育て支援策も充実しているが、東京に近く文化施設や魅力ある企業が多く進出していることが要因と考えられる。内陸フロンティア構想で魅力ある企業誘致に期待したい。		
その他質疑・意見	せっかくの報告会。女性などこの時間帯に参加するのは厳しい方もいる。開催日時にひと工夫ほしい。		貴重な意見ありがたい。女性の参加しやすい日時も考える必要がある。		

議会報告会報告書(記録)

開催日時	平成26年11月7日(金) 午後7時00分～午後8時43分				
開催場所	大須賀支所2階市民交流センター会議室				
参加人数	70人				
出席議員	1班	高木 敏男	堀内 武治	鈴木 久男	鷺山 喜久
		山本 行男	雪山 敏行	二村 禮一	大場 雄三
	(質疑・意見)		(回 答)		
基本認識	説明は簡単で良い。質疑応答に時間を割いてほしい。例えば公共交通等社会資本整備に。		基本認識を願いたいため、トータル的な説明が多くなった点、ご理解いただきたい。		
超高齢社会	65歳は高齢者ではない。基準の改正が必要。		高齢者でも元気な人は若者を支える時代が来ていることを認識願いたい。		
少子化	子どもを産みたくても産めない夫婦もいる。産みたい人が産みやすい制度づくりが必要。不妊治療への助成についてはどうか(他市のデータも知りたい)。		助成制度はある。治療費も高く体調不安も皆無でないようだ。他市の事例は調べていきたい。		
	学童保育は親側の都合だけ考えた制度。子どもの為になる中身も考える必要はないか。		指導員の指導方法も充実しつつある。		
その他 人口減少 社会に関 する質疑・ 意見	報告会に期待するのは市議会の政策論議である。例えば三世代同居応援助成は目に見えるが、他の施策が見えてこない。		保育園への入所措置等制度的な課題が多いのが現実。これから市として何をやれば良いのが課題と思う。		
	安全安心のために防災対策に力を入れてほしい。原発は廃止を。		安全安心対策としてスーパーコンピューターで描かれた津波防災マップを基準に「掛川モデル」が進行しつつある。		
	政策的には東京のまねはしなくてよい。地域の特性を活かした施策を望む。		東京にない魅力はたくさんある。地域の良さを実感できる施策を研究し進めていきたい。		
	(多すぎれば余った者を捨てる、ネズミの話引用)姥捨て山が必要では。高齢者の海外移住制度を考える時代では。		(特に回答なし)		
その他 質疑・ 意見	安全・安心と言っても何も見えてこない。横須賀幼稚園では津波避難時には10人の園児を1人の先生が対応することの不合理がある。		掛川モデルの築山整備等進行しつつある。		
	テーマが大きくて難しい。気軽に話し合える報告会を開催願えないか。		(特に回答なし)		
	回数を増やせばミニ集会も可能。若い女性が参加しやすい議会報告会の開催を検討すべきでは。		御意見のとおり、少人数の会も良いと思うが、会を開催するにはそれなりの準備期間も必要。少人数でやれば良いと言うものでもない。容易でないことを理解願いたい。今後は検討していきたい。		
	市民協働とは何か。市民には「行政イコール議会」で議会の独自の役割が目に見えてこない。ある市民委員会では議会不要論の声もある。		議会も頑張っていて、進化しつつある点を理解願いたい。		

議会報告会報告書(記録)

開催日時	平成26年11月8日(土) 午後7時00分～午後8時50分				
開催場所	和田岡地域生涯学習センター				
参加人数	59人				
出席議員	2班	栗原 通泰	大石 與志登	鈴木 正治	草賀 章吉
		榛葉 正樹	渡邊 久次	野口 安男	小沼 秀朗
	(質疑・意見)		(回 答)		
基本認識	数値を座学で学ぶような報告会の形式だが、そういった解釈で良いか？発表者から私達はこう考えているよ、という意見が無いが？		テーマ1で統計数値等の基本認識を述べ2と3で対策を説明する。		
	24人の議員がこの現状をまず把握するよ、というのが1のテーマか？		そのとおり。おさらいを兼ねてのお話をさせていただきました。		
	資料の三世同居率が意外に高いが実際こんなに高いのか？私の地区ではほぼゼロに近いのだが？		静岡県健康福祉部の公表数値(平成22年国勢調査)を使用した。		
	4年も前のデータか？県でなく市のデータを使ってほしい。		御意見も一理ある。今後注意しデータを示していきたい。		
	議員が見つけたデータはどれだけあるか？		議員の各々のチームで分担して作成した。中には県、市から頂いたデータがある。		
超高齢社会	(特になし)				
少子化	資料21頁の従業員数は正規社員か？非正規社員か？		これは全てのトータル数。最近の調査では3割から5割が非正規である。		
	このデータをもとに働く場所の新しい工場のほとんどが派遣、パート社員である。子育て支援する場合、介護問題もそうだが嫁いだ先に、おじいさん、おばあさんがいると行きたくない。在宅介護もそう。Uターン、Iターンも正規社員を雇っているところはほとんどない。工場を誘致して人が増えているわけでもない。もう少し深く考えるべき。		(特に回答なし)		
その他人口減少社会に関する質疑・意見	地区の組単位で生コンの作業を今日丸一日やってきた。14軒で子供のいる世帯は2軒だけ。平均年齢65歳以上。年齢の上から欠けていく。生コンは今日はやれたがそういう身近なところからひしひしと感じている。茶園、耕作放棄地も誰がやるのか、半分はやっていけなくなるのでは、とひしひしと感じる。もっと身近な行政当局のデータを頂いて議会の皆が見つけた会にして議会はこう考えているから皆の話を聞かせてくれの形に今後変えるべきだ。		貴重な意見ありがたい。地域の皆様の意見を含め、行政がどこまでできるのかを討議する。		
	今日はこういった議題だが、ここは農林地区である。和田岡の人口が平成17年から平成27年にかけて400人減って、3,000人くらいに、13%減る見込みである。子供たちに自分の地所を分けるためにも農地からの転用の形をとれば地域でも農業人口が減る中で助かる。農林課と足並みを揃え進めて欲しい。		農業問題は奥が深く問題山積みだが、これからの農業のあり方については大切な課題。米価も8,000円程度と聞いている。後継者問題どころではない。今のご意見も農林課、農林事務所に提案していきたい。		

	(質疑・意見)	(回 答)
その他 質疑・ 意見	今日は掛川市議会報告会となっている。議会で議員がいろいろお話をし、これからこういうことをやっていく、という発表だと思って今日は来た。しかし、データを発表するだけで報告会ではない。他の会場でそういった質問は無かったか？	確かにあった。前回は課題を投げかけて、頂いた意見を参考に政策に取り入れた。今回もそうだがこの会を通じ皆様からの意見を頂き、持ち帰り議員間討議をし、政策提言していく。
	それならもっと先に発表するべきで今日の会は単なる勉強会。何回も報告会をやってきて同じ指摘をされてもそれを繰り返しているのか？	貴重な意見として頂いて持ち帰る。
	初めて参加したが、何のためにこの会があるのか疑問。データ開示は市の職員がやること。議員は自分の意見を言って、こういう事をやってきた、と言って欲しい。この報告自体、既に知っている事ばかり。私達は議員の皆様と話せる機会がない。こうやって闘ってきた、と自分の意見を言って我々の意見を聞くべきではないか？	ご意見ありがたい。各々の議員の考えはもっている。しかし、それを議論してきたわけではない。取り組みがおかしいのでは、との今のご意見は受け止めて、これからどういった事をしていったらいいのか持ち帰る。
	私達は議員に社会の未来を託して投票した。今日の内容は大体がテレビで分かっていること。知りたいのは掛川の目標や活動。それらを教えてほしい。	お叱りはごもっとも。その中身がどうであるのかはこれから見て欲しい。それについては持ち帰りたい。
	持ち帰るのではなく議員の活動の結果について答えてほしい。	市議会で今までしたことは、ここに発表したこと。
	市議会というのはそういうお勉強会をしているだけなのか？	勉強会もしている。報告会では皆様から意見を拝聴している。
	勉強会をして良いアイデアが出ないから皆さんから意見を聞きに来たのか？	確かに勉強不足はある。それは認める。しかし、だからと言って何でも皆さんに聞きたいという意味ではない。
	自分達が独自につくったデータはあるか？	議員各々のチームで作成した。